

この夏から、「読解力」を身に着け、大幅な成績UPを目指そう

—辞書・新聞・読書で「読解力」を身に着けよう—

開倫塾

塾長 林明夫

**Q：大幅な成績UPを目指すには、読解力を身に着けることが必要なのですか。**

A：(1)その通りです。大幅な成績UPを果たすには、教科書や参考書、教材を正確に読み取る能力、つまり「読解力」が欠かせないからです。

(2)同時に、定期試験や模擬試験、入学試験の問題文や設問、選択肢の文章を正確に読み解いた上で、正解を導き、合格点を取るためにも「読解力」は欠かせません。

(3)つまり、各教科の内容を勉強することも大切ですが、これと同じくらいのエネルギーと時間を用いて、文章や資料などをスピーディーに、正確に読み解く力、つまり「読解力」を身に着けることが絶対に必要です。

\*各教科の勉強だけして「読解力」を身に着ける努力、取り組みをしないのは、キャッチボールや素振りの練習をしないで野球をするのと同じです。蹴伸びの練習をしないでクロールに挑戦するのと同じです。

**Q：模擬試験の偏差値を上げるためにも、読解力は必要なのですか。**

A：はい、必要です。偏差値には10ごとの壁があります。偏差値40、50、60、70など各々の壁を突き破るには、教科の勉強とともに「読解力」を身に着けることが欠かせません。

**Q：読解力を身に着けるには、具体的にどうしたらよいのですか。**

A：簡単です。次の三つを確実にやることです。すると、短期間に「読解力」が身に着き、成績が急上昇します。この私の文章を読んだその日から、ぜひ次の三つをスタートしてください。あっという間に、学校の成績と模擬試験の偏差値が急上昇します。

(1)第一は、「辞書」の活用です。

①意味のわからない語句があったら「気持ちが悪い」と考え、必ず「辞書」を用いて調べること。

②「辞書」で調べたことは、「意味調べノート」か「カード」に書き写すこと。

③毎日1回は、「意味調べノート」や「カード」を1ページ目、1枚目から読み直し、全部身に着けること。

\*1日に10回以上、「辞書」を用いて調べてください。こうすると、1日10回×1年365日で3650語になります。3年続けると、1万の「ことば」が身に着きます。国語と同様に、英語も毎日10語以上「辞書」を用いて調べましょう。3年で1万の「ことば」が身に着きます。「ことばは力」「語彙(ごい)は力」です。

(2)第二は、「新聞」の活用です。

①新聞を毎日30分以上、一面からなめるように読むこと。

②新聞を読んで気になった記事は、切り抜いて「スクラップブック」にのりで貼り付けること。

③「スクラップブック」の記事には、毎日1ページ目から目を通すこと。

\*国際連合が定めた2030年に向けた人類の取り組み課題である「SDGs」の17項目に関係した記事を、今日から1年かけてスクラップし続けることをお勧めします。

\*「SDGs」の17項目の一つ一つは大切な内容ですので、これから学校の試験はもちろん模擬試験や入学試験にもどんどん出ます。

(3)第三は、「本格的な読書」です。

①学校の教科書に載っている作者・著者の本を、「作者・著者と時空を超えた対話」をするようなつもりで、腰を落ち着けて、ゆっくりと時間をかけて、一語一語かみしめながら丁寧に読み込むことが、「読解力」を身に着ける上で、超お勧めです。

②読書をしていて気に入った語句や文章に出合ったら、たとえ一語・一文でもよいので「書き抜き読書ノート」に書き抜くこと。

③「書き抜き読書ノート」には、毎日1回は目を通すこと。

\*小学生は1週間に1冊、中学生は2週間に1冊、高校生は1か月に1冊、このような「本格的な読書」をお勧めします。「作者・著者との時空を超えた対話」を目指す「本格的な読書」により身に着くのは、「思慮深さ」「省察力」です。

**Q：最後に一言どうぞ。**

A：(1)はっきり言って、意味のわからない語句があったら「辞書」を用いて調べ、「新聞」を毎日丹念に読み、学校の教科書に出ているような作者・著者の本を腰を落ち着けてじっくりと読んでいる人の大半は、学校の成績がよく、模擬試験の偏差値も60以上、70以上が多いと言えます。

(2)逆に言えば、学校の成績や模擬試験の偏差値を急上昇させたければ、教科の勉強と並行して「辞書」を毎日引き、「新聞」を毎日読み、「読書」に毎日励むことです。

(3)夏休みと2・3学期は、この絶好の時期です。特に難関校の受験生で、合否のボーダーラインにいる人は、必ず「辞書」と「新聞」と「読書」で「読解力」を身に着けてください。ぜひ挑戦を。